

世界のソーシャル・ビジネス

欧州編
オランダ運河のごみ釣りツアー
ボートはPET再利用

子どもたちも環境問題を実感できて、エコへの意識が高まりそうだ

アムステルダムで、小型ボートに乗って、運河のごみを集めるユニークなエコツアーが人気だ。環境に貢献でき、通常の観光船では入れない場所にも連れて行ってきて、観光もできる2時間の旅。ボートは、釣ったペットボトルを再利用している。ボトルがたまるたびにボートも増えていく。

(チューリヒ=岩澤 里美)

「プラスチック・ホエール」社は、1年を通して、アムステルダムの運河のごみ釣りツアーを開催している。参加者はペットボトルをはじめ、あらゆるごみを網ですくう。料金は1人約3300円。楽しい上に社会貢献になる、子どもと一緒に楽しめることも好評だ。同社が設立した2011年から今春までに集めたペットボトルの総数は14万本を超え、ごみは3千袋近くにもなった。

ロゴのクジラを描いた可愛らしいボートは、同社オリジナル。釣ったペットボトル数千本を洗って粒状にして、最終的に板状にしたものがボート1艘の船体として使われる。2014年に第1号が完成して、いまは約10艘になった。世界からの個人観光客がツアーをオンラインで簡単に予約できるようになったのは、エアービーアンドビーに加わった2017年夏からだ。それ以前も、多数のツアー

を実施していた。社員向けのイベントとして企業が利用したり、5つ星ホテルのピュアリッツァー・アムステルダムが提携して同社に寄付するとともに、宿泊客にツアーを紹介したりと、市内の企業とも積極的にかかわってきた。企業利用は毎年200社以上になる。

行動に結び付ける

スミット・マリウスさんが、様々な企業で13年以上働いてから同社を設立したのは、近年、大きな環境問題として話題になっていく海洋ごみを、少しでも減らしたいと思ったからだ。アジアを旅行したときに、その実態を目の当たりにして胸が痛んだ。アムステルダムに戻ったら、地元の運河が汚かったことに気付いた。「とにかく、運河のごみを集めてボートを1艘作ろう」と決めて起業した。大勢で取り組まなくては解決しない問題だと呼びかけて、地道に集め

続けてきた。

ツアーは南部ロッテルダムの運河でも開催し、国外の都市にもツアーを広げる予定だ。ペットボトルの再利用材を使ったスタイリッシュなオフィス家具も販売していく。「ごみは海の生態だけでなく、人間にも良くない影響を与える。何もしないか、何かするかの2つの選択肢しかない。プラスチック・ホエールは行動を起こすと決めた」

水中のごみを取り過ぎる心配は無用という現状に、同社は今後も挑んでいく。



家具はクジラをイメージ。イスの背は67本の回収PETから作ったフェルト製